
2004年3月期 決算説明会

株式会社トクヤマ

2004年5月14日



本資料利用上のご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権は(株)トクヤマに帰属します。
いかなる理由によっても、当社に許可なく資料を複製・配布することを禁じます。



説明内容

1. 04年3月期 決算説明
2. 04年度の業績予想
3. 3ヶ年計画の進捗



1.04年3月期 決算説明

(1) 決算概要

(2) 決算要因分析

(3) 業績推移



1 - (1) 決算概要

(億円)

	03年度		02年度		差	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体
【損益状況】						
売上高	2,193	1,450	2,255	1,514	62	64
営業利益	131	95	128	101	3	6
経常利益	92	66	63	40	29	26
当期純利益	60	48	3	2	57	50
【資産状況】						
総資産	3,088	2,489	3,167	2,566	79	77
株主資本	1,244	1,178	1,112	1,059	132	119
株主資本比率	40.3%	47.3%	35.1%	41.3%	5.2%	6.0%

総資産減少（連結）：有利子負債を圧縮（ 267 ）

手元流動性圧縮・債権流動化・在庫圧縮等（ 200 ）、有形固定資産減（ 46 ）等
一方で投資有価証券が評価増（ +146 ）



1 - (2) 決算要因分析

セグメント別 増減要因

セグメント別 売上高 / 営業利益

営業外損益明細 (連結)

特別損益明細 (連結)



セグメント別 増減要因：化学品

(億円)

	売上高			営業利益		
	03年度	02年度	差	03年度	02年度	差
トクヤマ	652	738	86	42	53	11
グループ会社	252	248	4	10	5	5
化学品 計	904	986	82	52	58	6

	売上高要因	営業利益要因
トクヤマ	<p>ポリプロピレン 受託製造終了により減収 74</p> <p>ソーダ灰・塩カル 販売低調により減収</p> <p>クロルアルカリ 苛性ソーダ・塩素系溶剤 販売堅調、P O 他 販売減少により横ばい</p> <p>NOC I P A 国内販売好調</p> <p>塩ビ(VCM) 輸出価格上昇により増収</p>	<p>ソーダ灰・塩カル 販売減、償却費・修繕費UPにより減益</p> <p>クロルアルカリ P O、塩素系溶剤の原料UPにより横ばい</p> <p>塩ビ(VCM) 輸出価格上昇により損益改善</p>
グループ	<p>新第一塩ビ(PVC) 価格是正により増収</p> <p>サン・トックス、天津陽光 競争激化による価格低下により減収</p>	<p>新第一塩ビ(PVC) 価格是正により営業黒字化</p> <p>サン・トックス、天津陽光 原料高により減益</p>



セグメント別 増減要因：特殊品

(億円)

	売上高			営業利益		
	03年度	02年度	差	03年度	02年度	差
トクヤマ	416	409	7	34	34	0
グループ会社	182	177	5	21	17	4
特殊品 計	598	586	12	55	51	4

	売上高要因	営業利益要因
トクヤマ	<p>【Si事業】</p> <p>電子材料 多結晶シリコンは国内外で出荷好調なるも四塩化珪素ガス等が不振のため微増</p> <p>機能性粉体 乾式シリカはアジア需要好調なるも湿式シリカは出荷低迷で減収</p> <p>【機能材料事業】</p> <p>窒化アルミニウム、半導体・液晶向け高純度薬品好調により増収</p>	<p>【Si事業】</p> <p>電子材料 多結晶シリコンで円高・売上構成の影響による価格低下、休止部門費の原価算入があり減益</p> <p>機能性粉体 湿式シリカ低迷</p> <p>【機能材料事業】</p> <p>窒化アルミニウム、半導体・液晶向け高純度薬品好調により増益</p>
グループ	<p>台湾徳亞瑪、トヤマ・エレクトロニクス・ケミカル</p> <p>半導体・液晶向け高純度薬品好調により増収</p> <p>イアント・ティ 病院検査室IT化等により増収</p> <p>トヤマデンタル 新製品投入遅れや米国での販売減により減収</p>	<p>台湾徳亞瑪、トヤマ・エレクトロニクス・ケミカル</p> <p>半導体・液晶向け高純度薬品好調により損益改善</p> <p>イアント・ティ 販売増が寄与し増益</p> <p>トヤマデンタル 販売減により減益</p>



セグメント別 増減要因：セメント建材その他

(億円)

	売上高			営業利益		
	03年度	02年度	差	03年度	02年度	差
トクヤマ	382	367	15	18	13	5
グループ会社	387	377	10	18	17	1
セメント建材他 計	769	744	25	36	30	6

	売上高要因	営業利益要因
トクヤマ	国内の価格是正、輸出拡大、廃プラ・汚泥処理の増加により増収	価格是正、廃プラ・汚泥処理の増加によるコストダウンにより増益
グループ	シャノン 関東以西での拡販により増収 生コン会社 需要減により減収	シャノン 増益 生コン会社 減益

セグメント別 売上高/営業利益

(億円)

	03年度		02年度		差	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化学品	904	52	986	58	82	6
トクヤマ	652	42	738	53	86	11
Gr. 会社(連結修正含む)	252	10	248	5	4	5
特殊品	598	55	586	51	12	4
トクヤマ	416	34	409	34	7	0
Gr. 会社(連結修正含む)	182	21	177	17	5	4
セメント建材・他	769	36	744	30	25	6
トクヤマ	382	18	367	13	15	5
Gr. 会社(連結修正含む)	387	18	377	17	10	1
計	2,272	144	2,316	140	44	4
セグメント間消去・全社費用	78	12	61	11	17	1
連結決算	2,193	131	2,255	128	62	3



営業外損益明細 (連結)

(億円)

		03年度	02年度	差	摘 要
営業外収益	受取利息配当	3	4	1	
	その他	22	28	6	
		25	32	7	
営業外費用	支払利息・社債利息	24	32	8	
	休止部門費	6	19	13	02年度 多結晶休止部門費 12億円
	その他	34	45	11	
		64	96	32	
営業外損益		39	64	25	



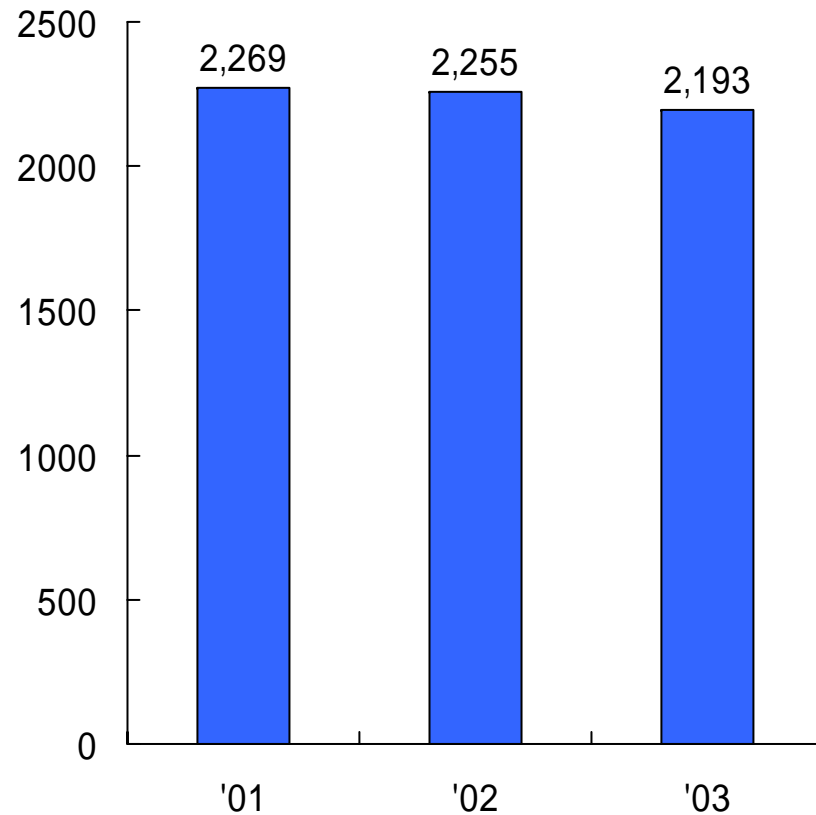
特別損益明細(連結)

(億円)

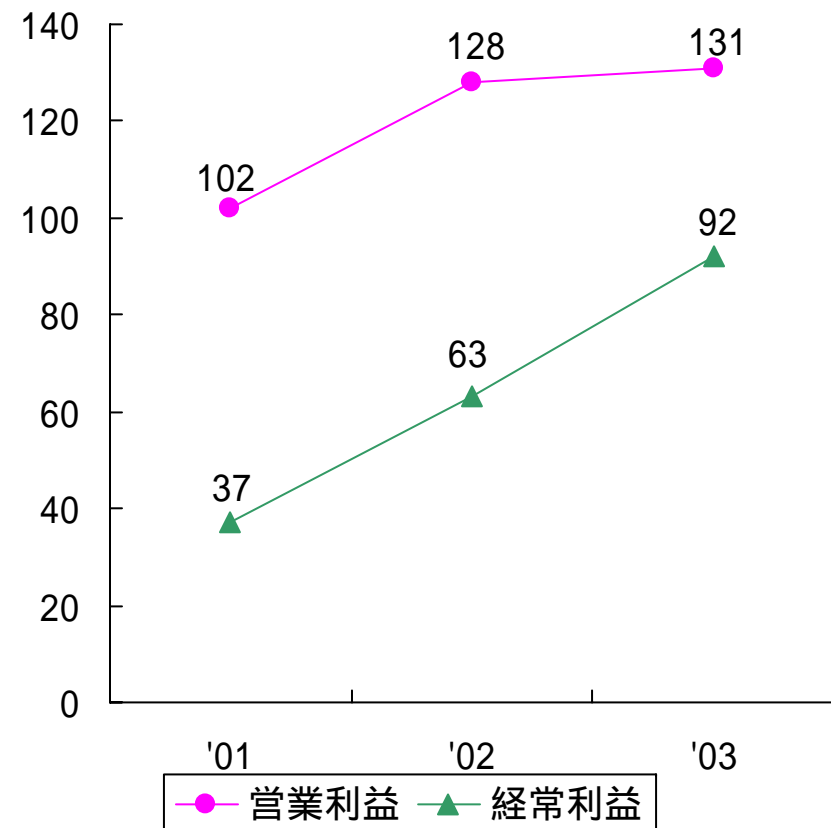
	03年度	02年度	差	備 考
特別利益	25	2	23	退職給付利率変更4% 2% 21億円
特別損失	14	45	31	02年度 銀行株評価損40 億円他
特別損益	11	43	54	

1 - (3) 業績推移 (連結) (億円)

売上推移



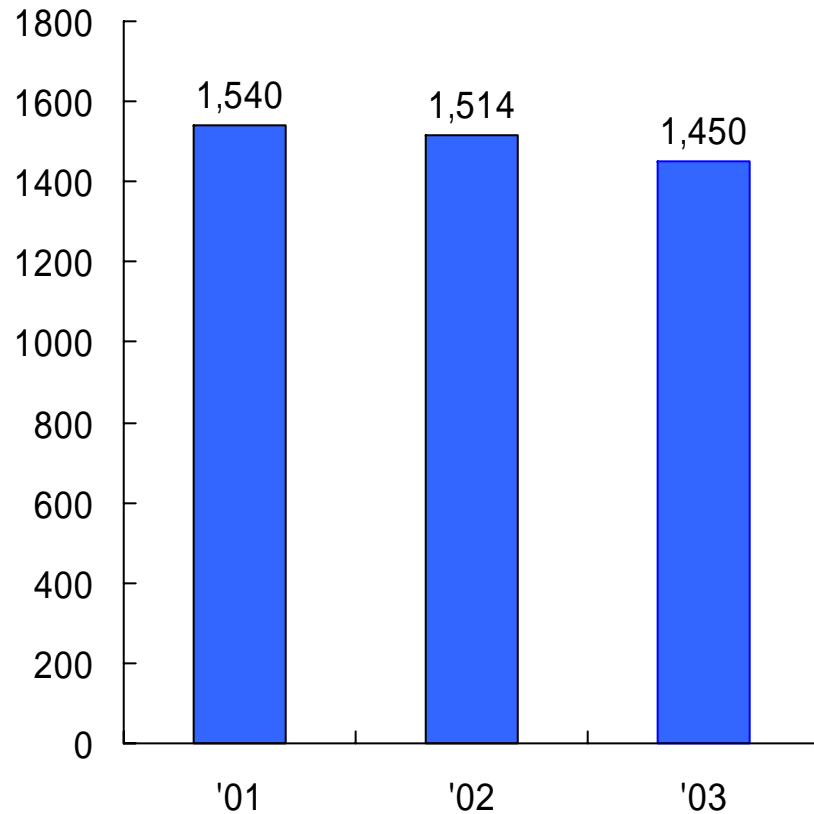
利益推移



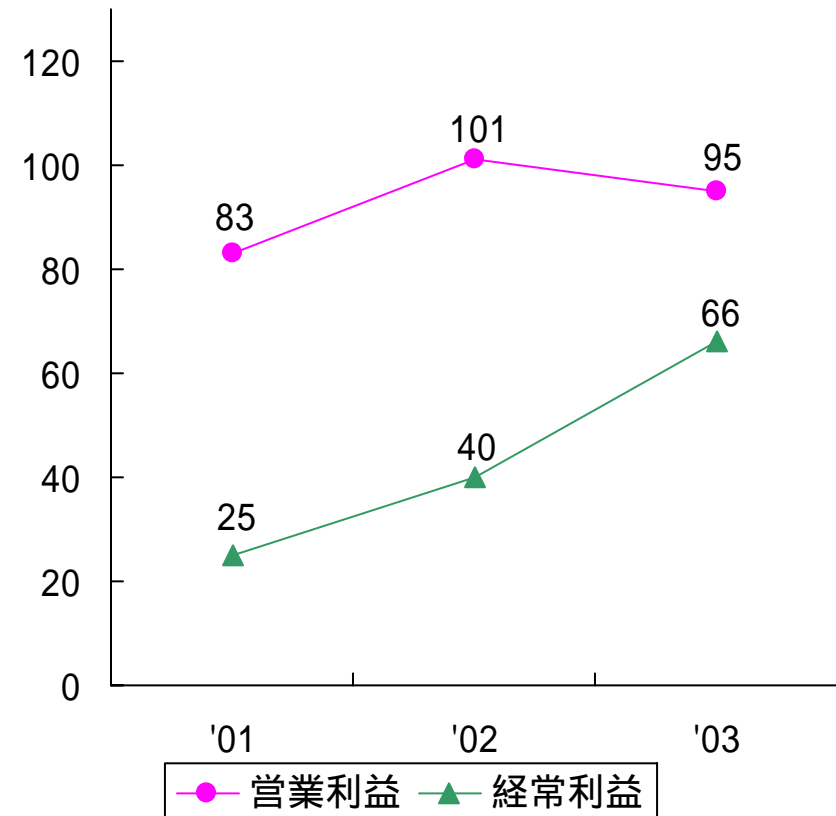
業績推移 (単体)

(億円)

売上推移



利益推移



2.04年度の業績予想

(1) 04年度の事業環境

(2) 04年度業績予想



2 - (1) 0 4 年度の事業環境

国内景気は回復基調

堅調な輸出、設備投資の伸び、好調な I T 関連産業が景気を牽引

中国経済の急速な立上りによる原燃料価格高騰

特に石炭、原油、ナフサ価格の動向を懸念

2-(2) 04年度業績予想

会計処理方法の変更

セグメント別 売上高/営業利益

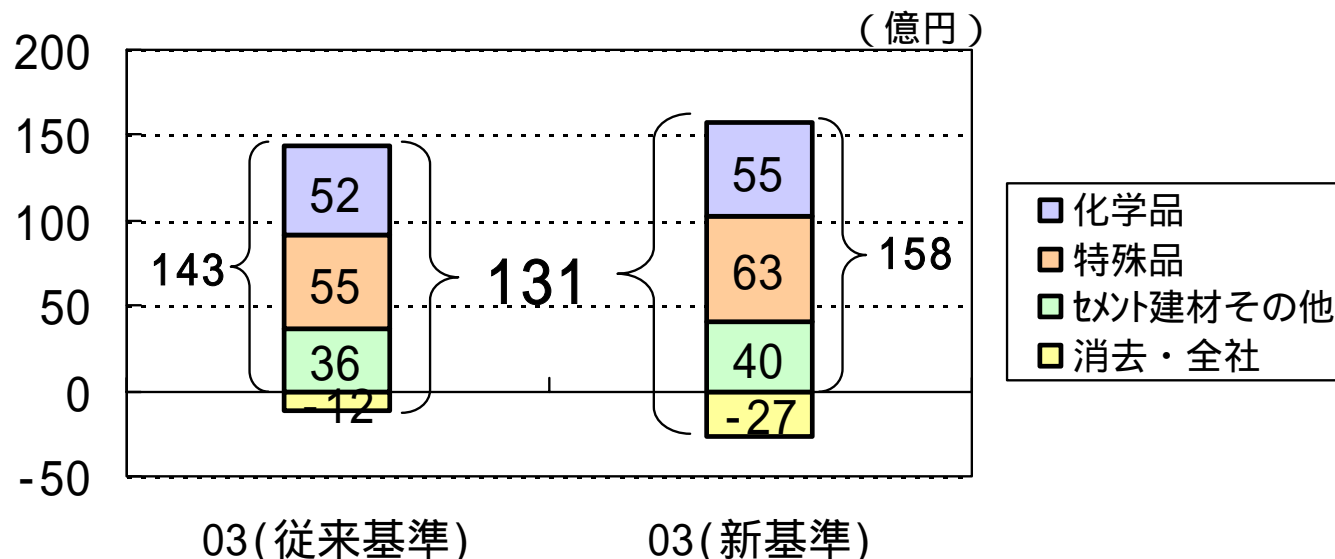
(04通期予想/03通期実績対比)

セグメント別売上高/営業利益推移

ここ10年間の業績推移

会計処理方法(費用配賦方法)の変更

03年度セグメント別営業利益の新旧比較



	従 来	04年度以降	影 響
全社研究開発費	セグメントへ配賦	「セグメント間消去・全社費用」へ	セグメントは利益増 消去・全社はマイナスが増
一般管理部門(総務・経理等)の費用	「セグメント間消去・全社費用」へ	セグメントへ配賦	セグメントは利益減 消去・全社はマイナスが減

セグメント(特に特殊品)の利益は従来より大きく表示され
「消去・全社」のマイナスも従来より大きく表示される



セグメント別 売上高/営業利益(通期比較)

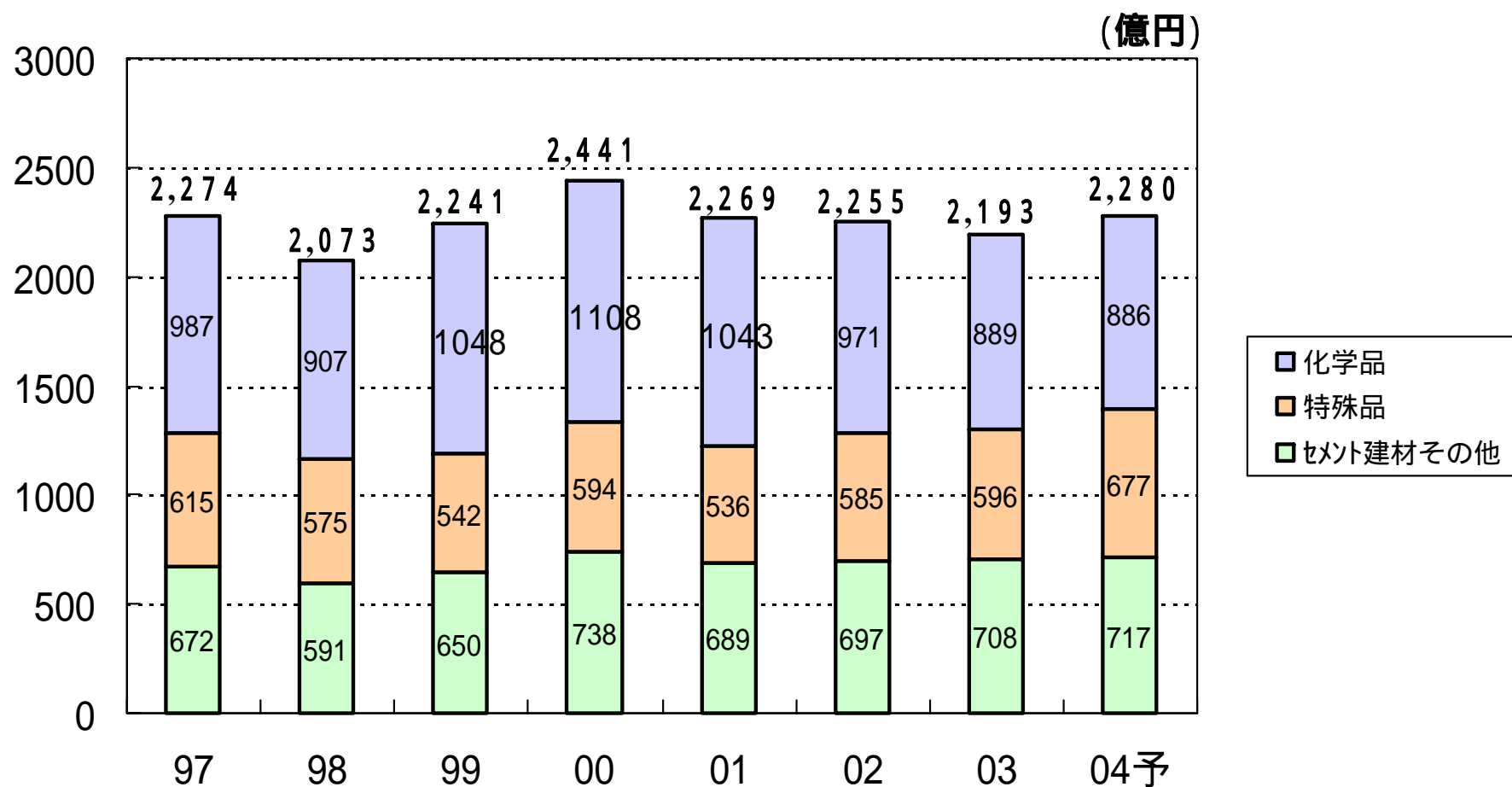
(04予想、03実績は新会計処理方法による表示)

(億円)

	04通期予想		03通期実績		差	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化学品	901	67	904	55	3	12
トクヤマ	637	40	652	51	15	11
Gr.会社(連結修正含む)	264	27	252	4	12	23
特殊品	679	84	598	63	81	21
トクヤマ	465	60	416	45	49	15
Gr.会社(連結修正含む)	214	24	182	18	32	6
セメント建材・他	777	40	769	40	8	0
トクヤマ	387	23	382	25	5	2
Gr.会社(連結修正含む)	390	17	387	15	3	2
計	2,357	191	2,272	158	85	33
セグメント間消去・全社費用	77	31	78	27	1	4
連結決算	2,280	160	2,193	131	86	29



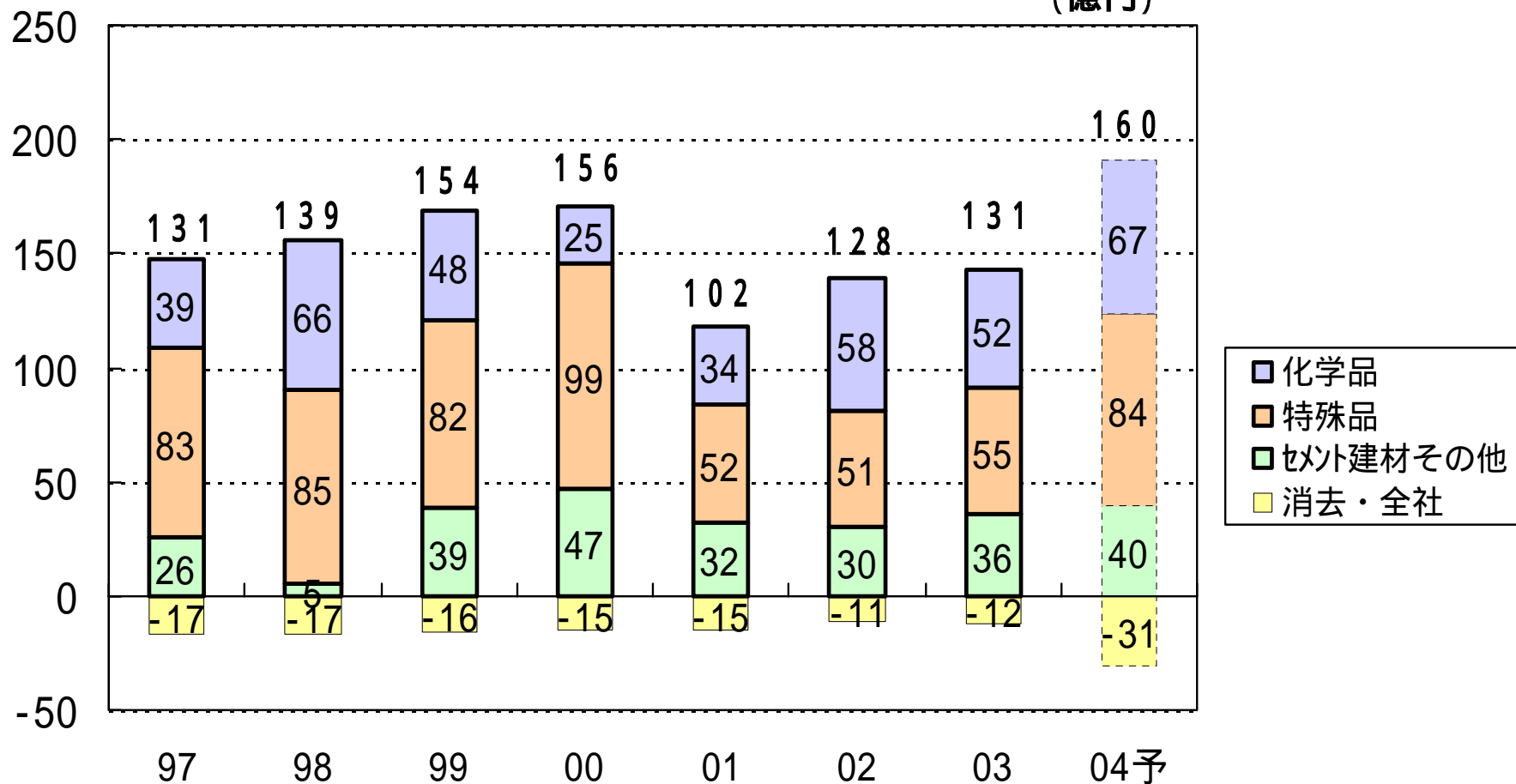
セグメント別 売上高推移 (連結)



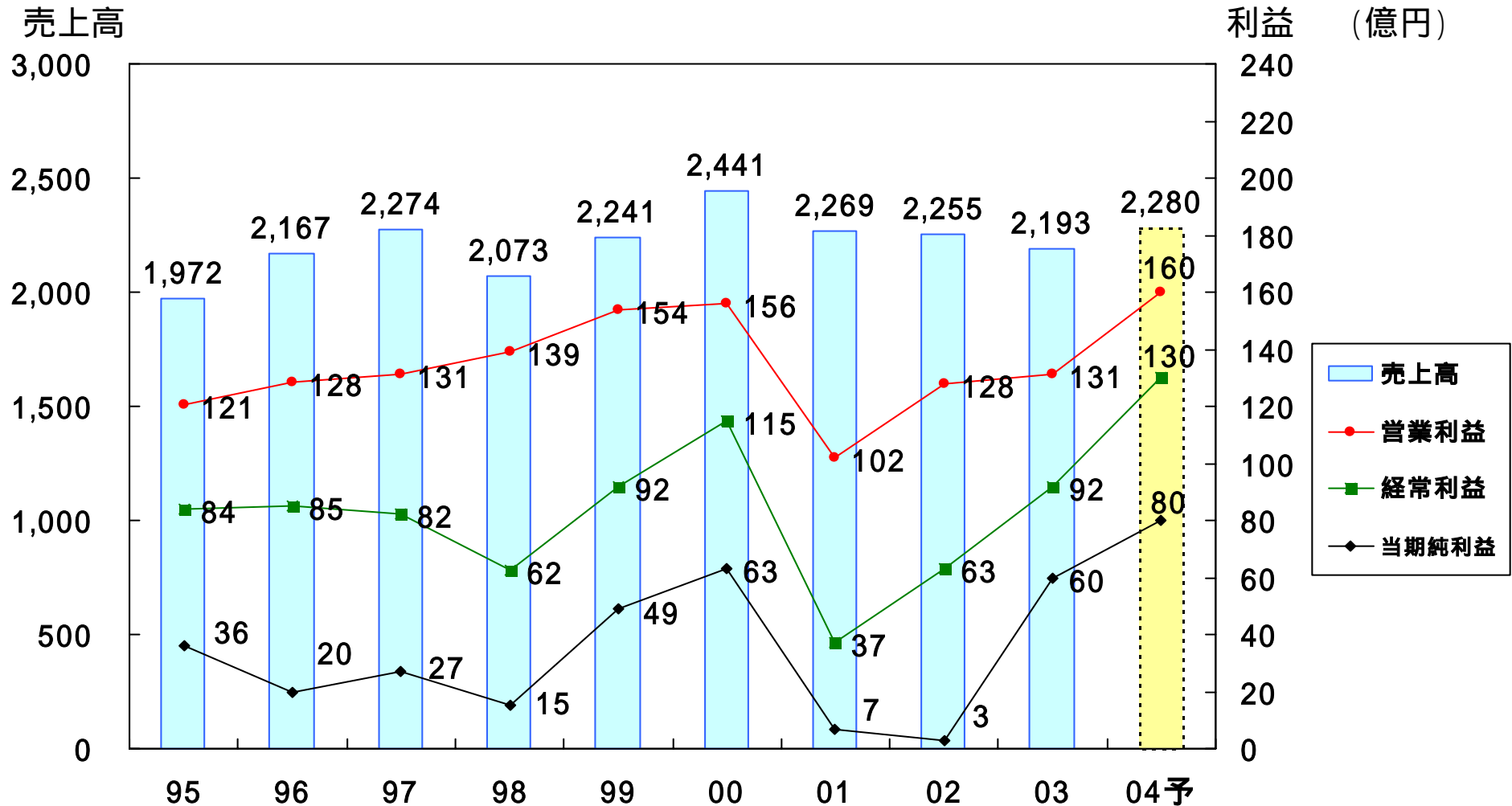
セグメント別 営業利益推移 (連結)

(04年度は新会計処理方法により表示)

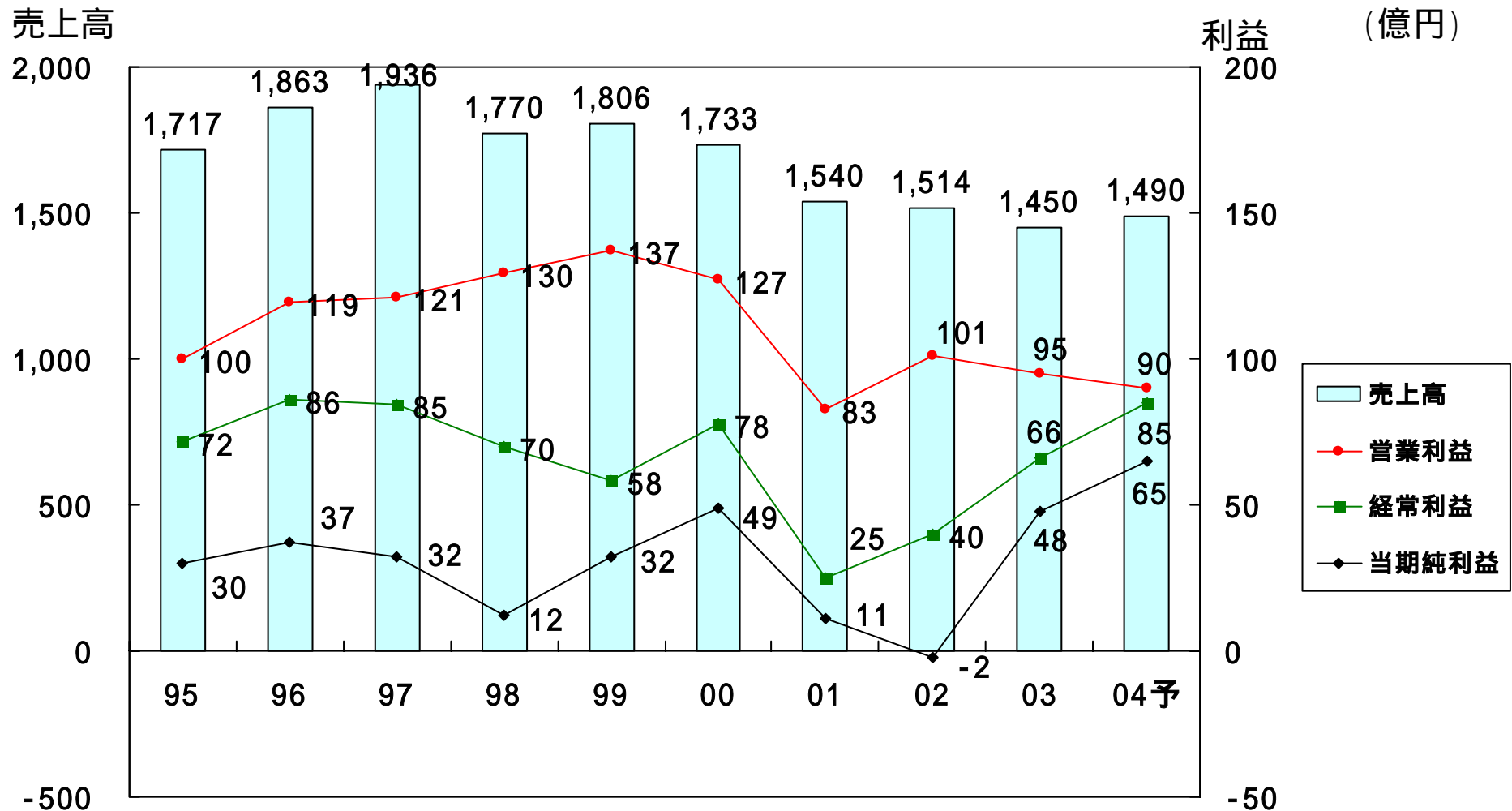
(億円)



ここ10年の業績推移 (連結)



ここ10年の業績推移(単体)



3. 3ヶ年計画の進捗状況

- (1) 経営施策
- (2) 事業構造の改革
- (3) 業務の改革
- (4) 徳山製造所の競争力強化
- (5) 財務体質の強化
- (6) 研究開発
- (7) 経営目標の見通し



3-(1) 経営施策

【事業運営体制の強化】

02.4 事業部門制の採用

【経営体制の強化】

02.7 経営会議の設置

コーポレートガバナンス（現システムの検証・課題の検討）

【法令遵守体制の強化】

03.7 コンプライアンス委員会設置

04.3 トクヤマ行動指針制定

全社員に冊子と標語シール配布で徹底

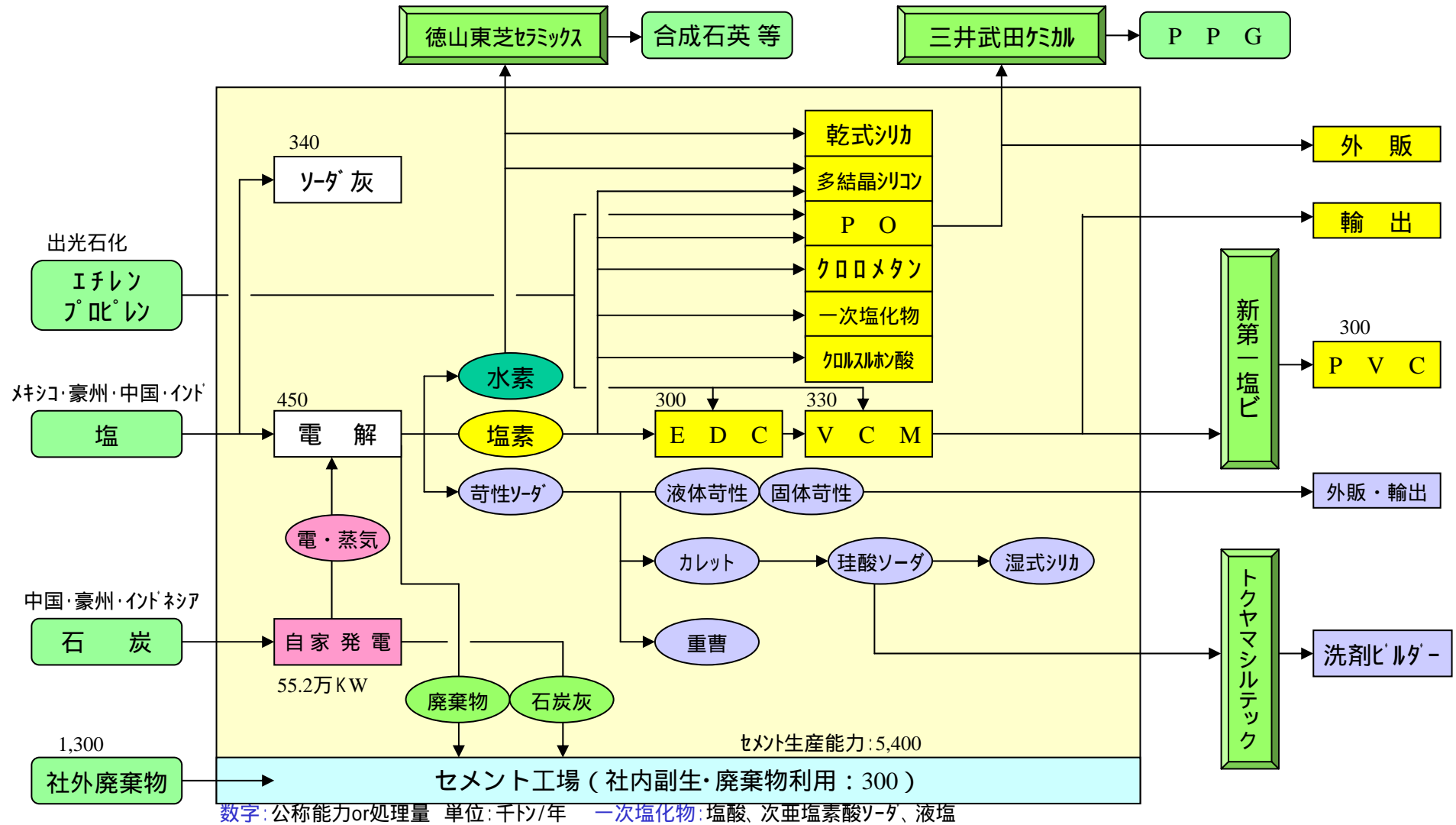
3-(2) 事業構造の改革

化学品

- 03.3 サン・トックス(株) 100%子会社化
- 03.3 宇部ポリプロから撤退
- 03.4 Chlor-Alkali Business Strategy PJ(CAS-PJ)発足
- 03.5 徳山ポリプロ(有) 営業運転開始
- 03.8 ラップフィルム事業から撤退
- 03.10 微多孔質フィルム中国進出 上海徳山塑料 試運転開始
- 03.11 (株)トクヤマホームプロダクツ 事業譲渡決定
→ 生活用品事業から撤退
- 04.4 オカモト(株)へ生活用品事業譲渡、(株)トクヤマホームプロダクツ解散
- 04.4 上海徳山塑料 営業運転開始
- 04.4 CAS-PJ による クロルアルカリ戦略の検討終了
→ 方向性を決定・実行PJの結成へ



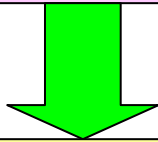
徳山製造所CA(クオールカ)事業のビジネスモデル



CAS PJの目的

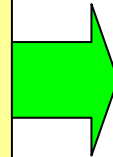
従来のCA事業戦略

- ・徳山製造所の自家発、港湾など強力なインフラを背景とした電・蒸気、物流コストの競争力と原・材料や副生物などのインテグレーションによる複合的競争力に依拠
- ・強力なアルカリ営業力と苛性自消力をベースに、塩素消費の高度化と多様化に強みを追求
- ・水素の高度・有効利用によるトータルコストの低減



事業環境の変化

- ・中国を中心とするアジア経済の拡大
- ・日本市場の成熟と顧客側拠点移動
- ・顧客側需要構造の変化
- ・個別製品で新技術の登場
- ・国際的な競争の激化



PJの目的

10年先を睨んだCA事業の勝ち残り・競争力強化のための再構築シナリオ、具体的戦略の策定

PJの目標

- ・コストダウンと競争優位の強化
- ・塩ビ事業強化のシナリオ策定
- ・事業勝ち残りと製造所強化シナリオ策定
- ・東アジア・中国市場を睨んだ成長戦略の構築



CAS PJの結論

1. 中国市場へのアプローチ

現時点では徳山製造所のCAビジネスモデルの中国への移転はインフラ等の整備状況から可能性は低い。

競争優位にある誘導品を中心に進出の可能性につき具体的検討に入る。検討にあたっては現地企業との提携も視野に入れる。

2. 徳山製造所の強化・拡大

投資効率のよい合理化案件に絞り、18億円のコストダウンに取り組む。

電解は最新鋭の技術を投入し、投資効率に重点を置いた増強のFSを開始する。

クロルスルホン酸等、成長力のない一部の製品について撤退・縮小の具体的検討に入る。

一方、競争力のある塩素・苛性誘導品の増強についてもFSを開始する。

 **実行PJを新たに組織し検討にあたる**



3-(2) 事業構造の改革

特殊品

03.9 (株)トクヤマデンタル 海外展開を本格化

Euronda社(伊)との合弁でトクヤマデンタルイタリー設立
(トクヤマデンタル51%、Euronda社49%)

03.7 (株)エイアンドティー

JASDAQに上場

04.1 イオン交換膜事業を(株)アストムへ事業統合

旭化成ケミカルズ(株)との製造合弁会社へ研究・営業を統合

04.1 上海松江フィガロ社設立

天津フィガロのセンサー素子事業に続き、ガス警報機製造・販売
の中国展開に向けて上海に新たな拠点確保

3-(2) 事業構造の改革

特殊品

ICケミカル 現像液(SD)の増強

03.1 徳山製造所 1,500 5,000トン/年

04.4 韓徳化学(韓国)で3,000トン/年 増強
6,000 9,000トン/年

以降段階的に増強予定 総投資額：約12億円
世界最大のメーカーを目指す

04.4 湿式シリカ事業提携 アジア展開を本格化

オリエンタルシリカ社(台湾)と事業提携、アジア最大の供給グループとして
拡大する中国市場を睨み、拡販体制へ

04.5 クロルスルホン酸撤退を決定

05.3をもって製造停止し、塩素等経営資源の高度利用を図る

乾式シリカ5,000t増設

04.7着工、05.3完成 能力約20,000トン/年へ 投資金額：約30億円
乾式シリカでもアジア最大のメーカーへ

3-(2) 事業構造の改革 セメント・建材他

【国内需要減への対応】

キルン3基体制で常時2基運転へシフト コスト削減

生コン工場の整理・統合を継続

徹底したコストダウンでアジア最強の工場を目指す

アジア地区への輸出シフトにより生産量500万トンの確保

輸出量推移：02年度 30万t 03年度 59万t 04年度目標 80万t

3-(2) 事業構造の改革 セメント・建材他

【資源環境事業の拡大】

- 02.4 山口エコテック(株)稼働 山口県下全域のゴミ焼却灰資源化
- 03.3 第2期高含水汚泥処理設備稼働 3万トン 8.5万トン/年
- 03.5 セメント製造部技術二課新設 資源環境事業拡大の技術支援強化
- 03.8 第3期廃プラ燃料化プラント稼働 4.5万トン 8.5万トン/年
- 03.10 写真廃液処理設備新設 3.6万トン/年
- 04.1 建設発生土処理設備着工(04.7完成) 25万トン/年
- 04.2 4号キルン塩素バイパス着工(04.7完成) 廃棄物受入拡大

3-(2) 事業構造の改革 セメント・建材他

【シャノン事業の拡大】

営業拠点の増強

九州営業所・中国営業所開設

製造拠点の拡大

03.4 相知工場（佐賀県）着工 能力2万窓/年

04.4 相知工場竣工 営業運転開始

用途の拡大

03.4 4タイプの窓について防火戸（準遮炎性能）認定取得
防火地域、準防火地域への拡大

3-(3) 業務の改革

【本社間接部門のシェアードサービス化】

情報部門

03.1 (株)トクヤマ情報サービス 設立

経理・人事・財務・総務部門

03.10 ビジネスサポートセンターへ集約目指し P J 検討開始

【SCMの導入】

02.12 化成品部門のデリバリーセンターへの業務集約完了

03.10 化成品部門の本格的なSCM導入に向けてP J 発足

3-(4) 徳山製造所の競争力強化

【インフラ整備・増強】

- 03.7 8号ボイラー営業運転開始
更新に合わせ燃料転換 アスファルト 石炭
- 03.10 9号タービン更新着工
更新に合わせ2.4万KW出力増 52.8万 55.2万KW
投資額：約30億円
- 04.2 9号タービン完成
- 04.4 環境対応型コンビナート特区内で電力特定供給開始
徳山中央浄化センターへ750KW
- 04.4 IA（インフラキャパシティー・アップグレード）プロジェクト発足
徳山製造所の更なるインフラ整備の推進

【安全の確保】

- 03.12 第2種無災害記録（810万時間）達成
第3種無災害記録挑戦中（05.6 1,220万時間）



3-(5) 財務体質の強化

【資産・資金効率の改善】-連結-

目 標

有利子負債を売上高の50%以下
04年3月期実績 47.7%

手元流動性を売上の30日(1ヶ月)相当額以下
04年3月期実績 37日

これまでの取組

受取手形の流動化(有利子負債によらない調達)
期限前弁済による有利子負債削減の加速(単体)

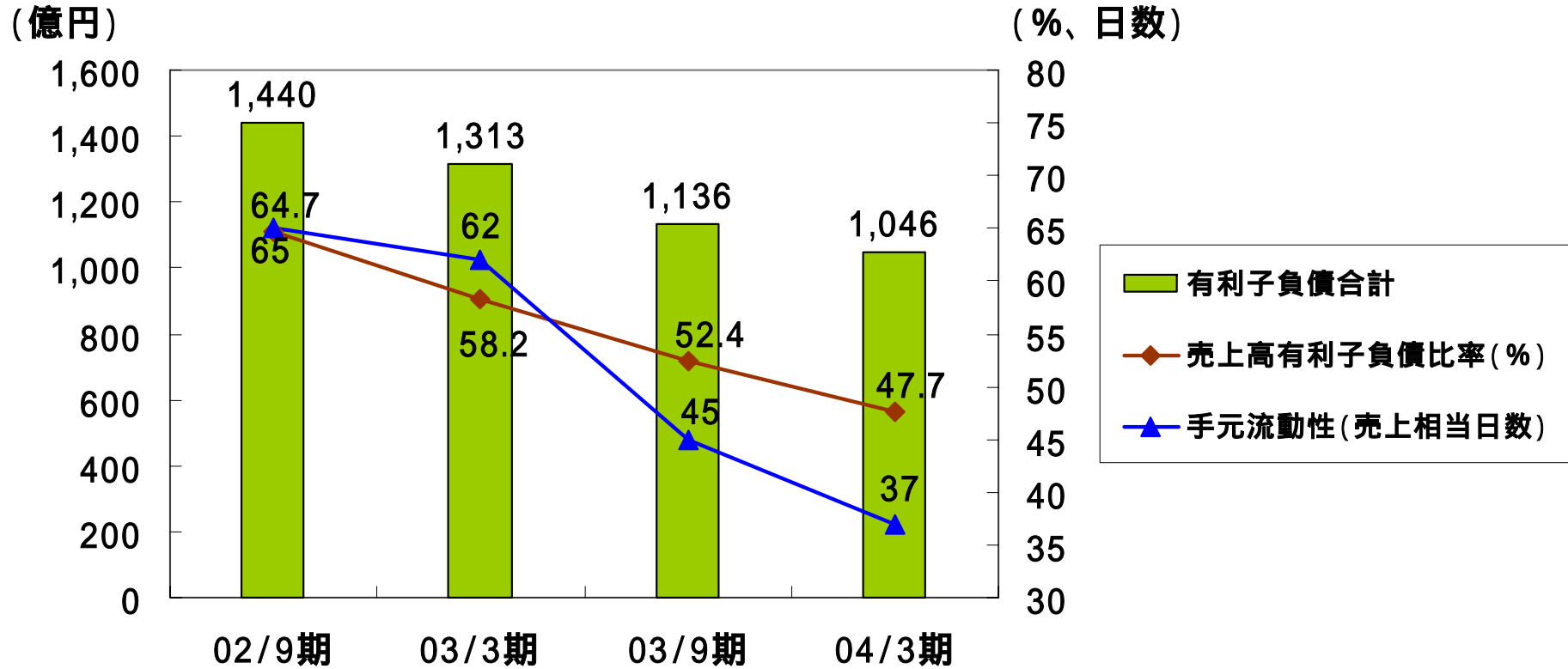
今後の施策

グループ金融の導入	資金効率の向上
棚卸資産の見直し	運転資金の削減
リースの活用	固定資産の圧縮



財務体質の強化

- 連結 -



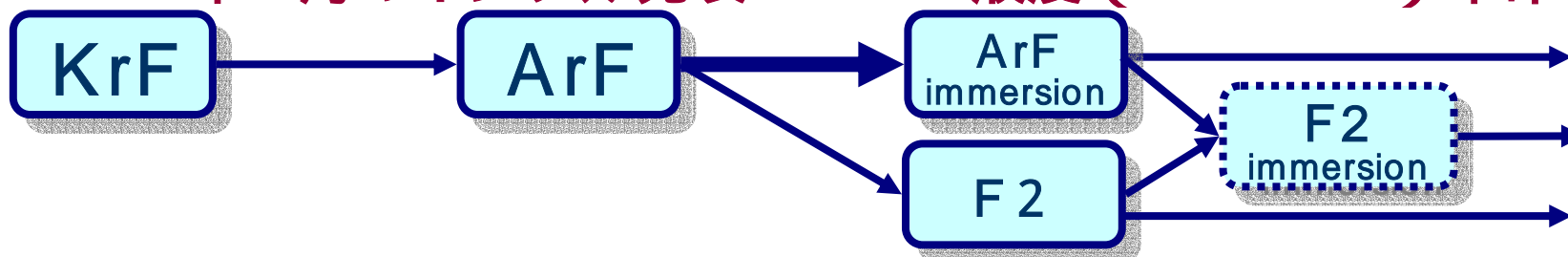
3-(6)研究開発

CaF₂大型単結晶の開発

次世代露光装置の方向転換

~ 03年5月のインテル発表

ArF-液浸 (immersion) 本命へ



『CaF₂大型単結晶』の需要構造の変化 ➡ ターゲット修正

F2のニーズ

200mm級大口径単結晶
結晶方位 (1 1 1)(1 0 0)

ArF液浸のニーズ

300mm級超大口径単結晶
結晶方位 (1 1 1)

04 / 4 300mm級 超大口径単結晶育成に成功

➡ ユーザー評価本格化



事業目標 & 投資規模

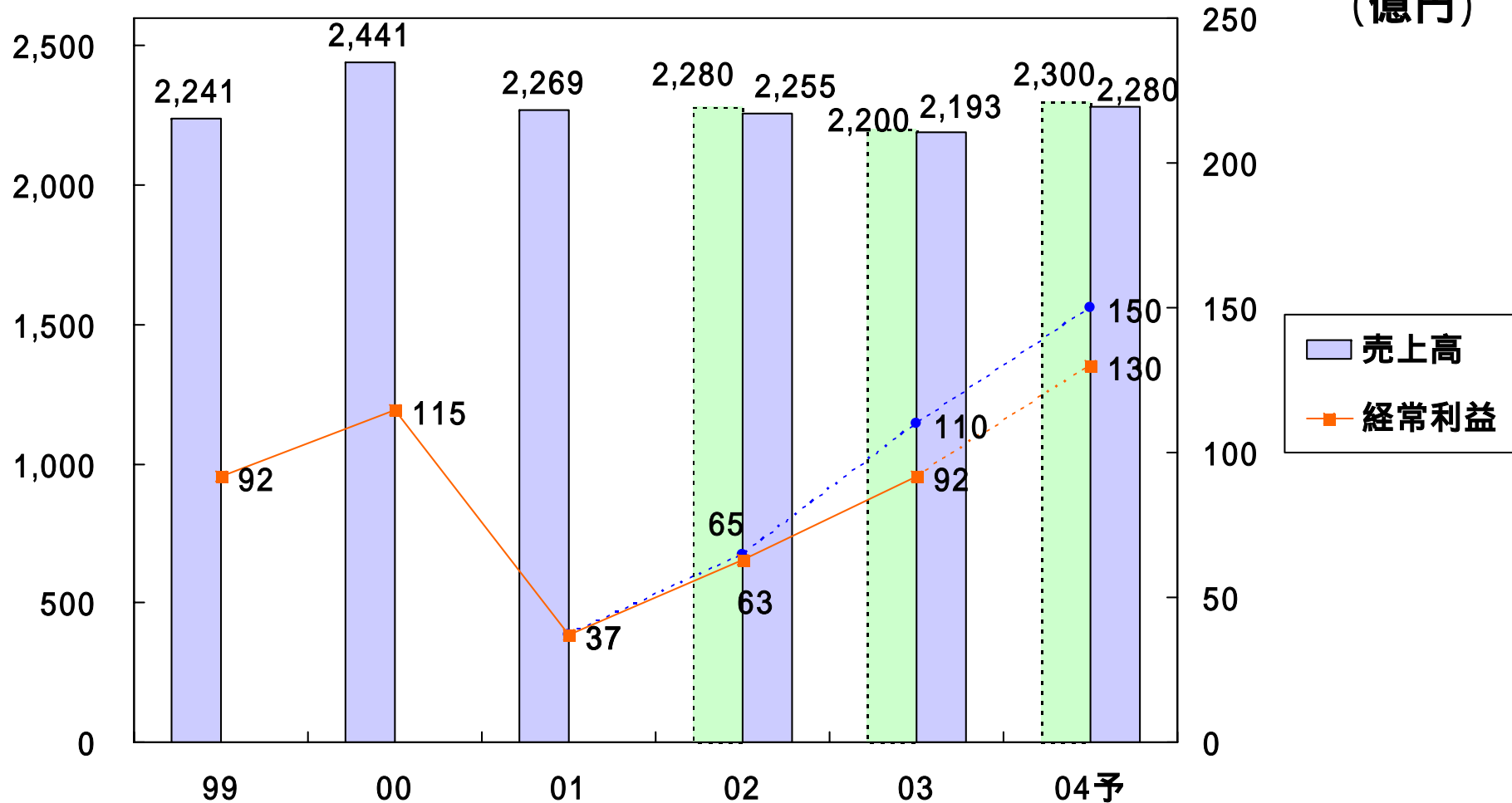
売上目標：50億円（2007年）
（ CaF_2 単結晶レンズブランク1,000枚/年）

設備投資：総額30億円（段階的投資）

3 - (7) 経営目標の見通し

- 経常利益(連結) -

(億円)

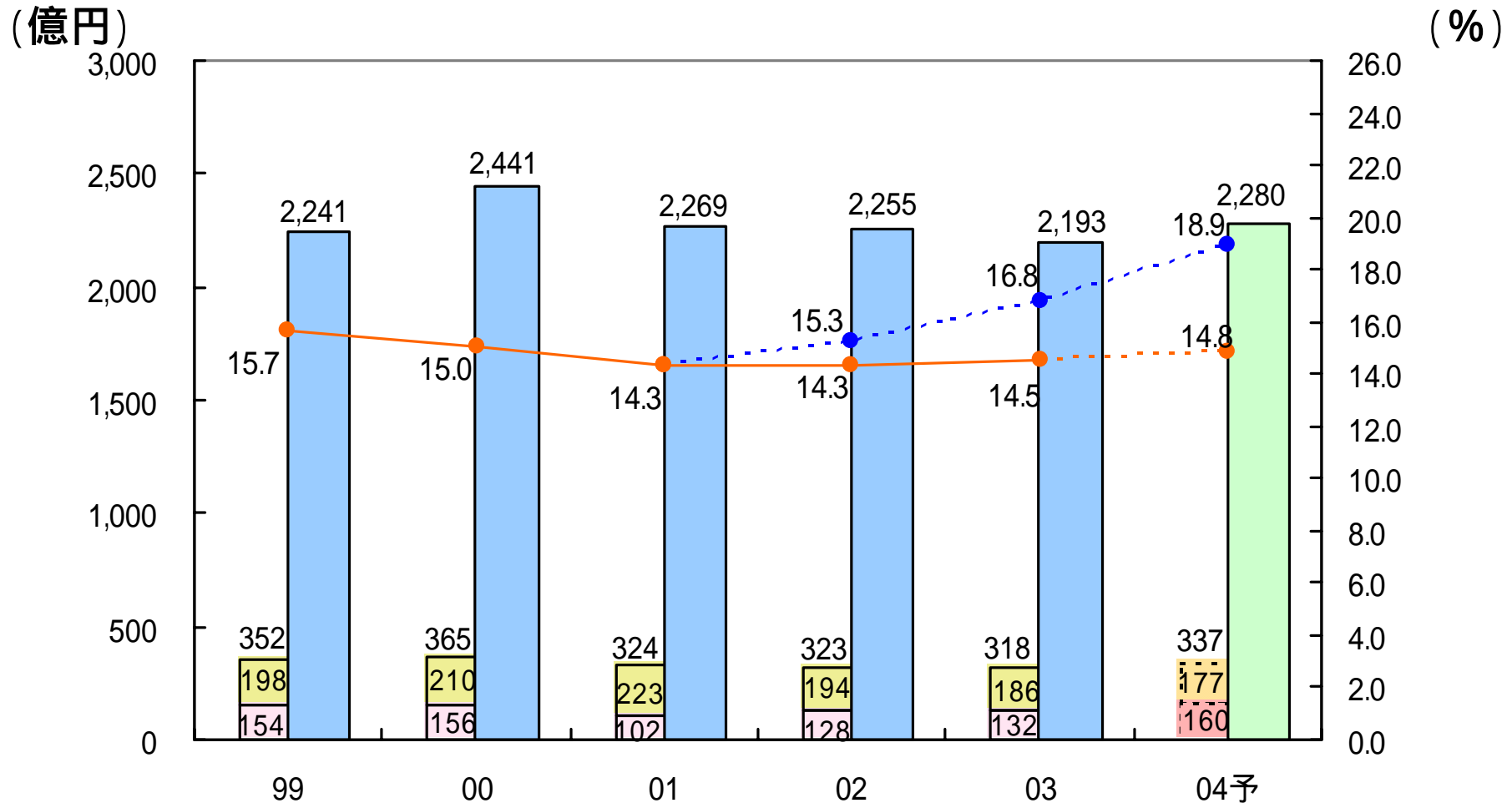


青点線は 3ヶ年計画の数値



経営目標の見通し

- 売上高償却前営業利益率(連結) -



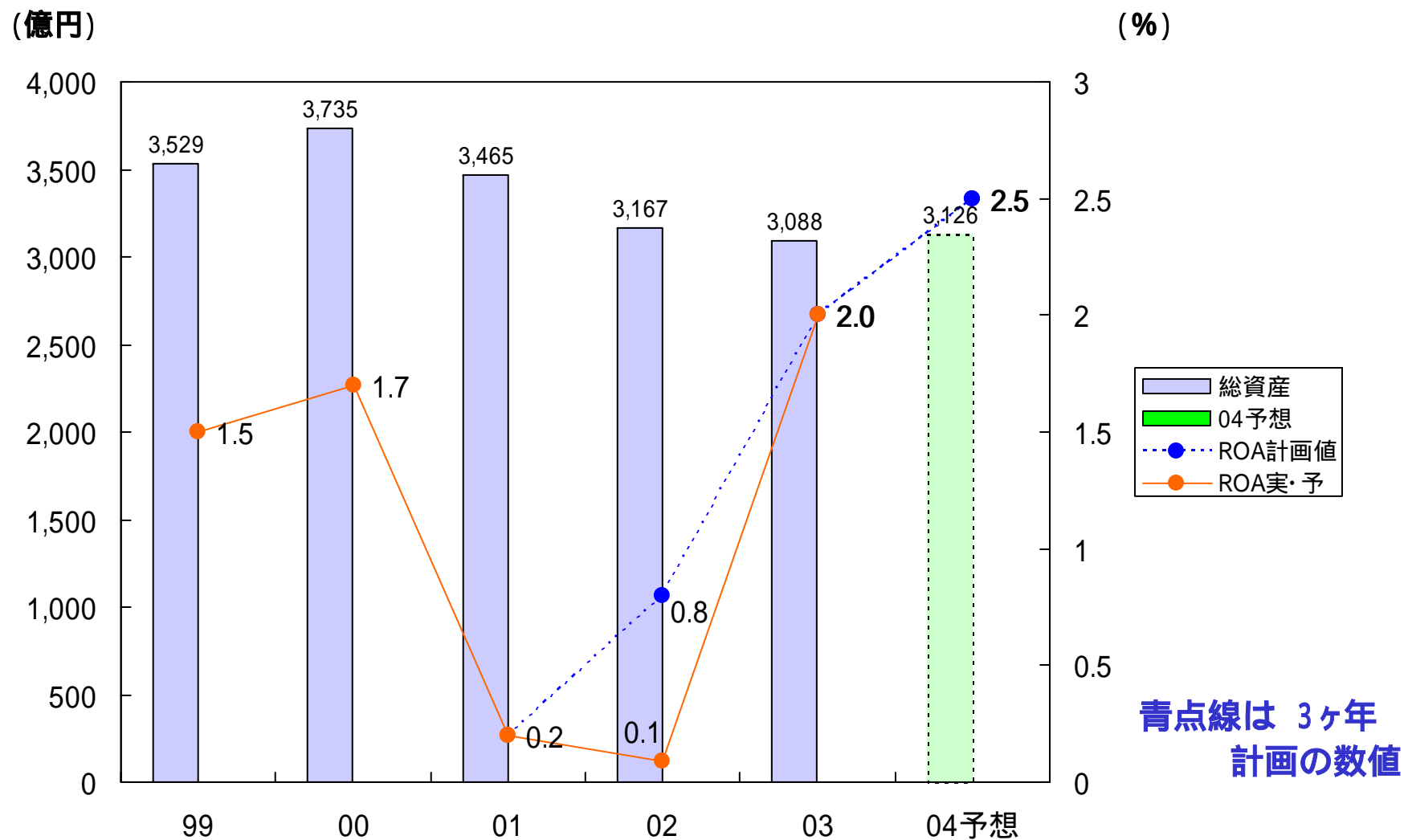
青点線は 3ヶ年計画の数値

営業利益
 償却費
 売上高
 利益率



経営目標の見通し

- ROA推移(連結) -



生活を奏でる化学です

TOKUYAMA

